2014年　3月　31日

公益財団法人　笹川記念保健協力財団
理事長　　喜　多　悦　子　殿

施 設 名　聖路加国際病院

代 表 者　院長　福井　次矢　　印

２０１３年度ホスピス緩和ケアドクター研修助成
に 係 る 報 告 書 の 提 出 に つ い て

標記について、下記のとおり報告いたします。

記

１．研究・研修事業　　２０１３年度　ホスピス緩和ケアドクター研修助成事業

２．期　　間　　２０１３年　４月　１日　～　２０１４年　３月３１日

３．報　告　書　　Ⅰ　事業の目的・方法

Ⅱ　内容・実施経過

Ⅲ　成果
（上記Ⅰ～ⅢをＡ４縦・横書　6，000字程度にまとめる）

Ⅳ　収支報告
①助成金の使途（人件費以外は領収書等の証憑書類を添付）
②当該助成金に関わる部分の決算書「写」
（貴機関の全会計決算書ではなく、当該助成計上部分のみで可）
※決算期の関係で２０１４年３月１７日（月）までに「写」を提出できないときは提出予定日を記入
（提出予定日　２０１４年　　月　　日）

Ⅴ　研修修了者報告書

以上

平成 26 年 3 月 18 日

2013 年度ホスピスドクター養成研究事業報告書

Ⅰ．　はじめに

ホスピスドクターの育成は、日本の緩和医療事情の発展に不可欠であり、年々その需要は高くなってきている。聖路加国際病院緩和ケア科でも緩和ケア病棟、緩和ケアチームや外来による活動を通して、ホスピスドクターの教育に力を入を注いでいる。今年度も笹川記念保健協力財団より助成をいただき、ホスピスドクターの養成研究を行うことができたので、ここに報告する。

1．事業の目的・方法

＜目的＞

一年間の医師研修を行うことによって、緩和ケア病棟における中心的役割を果たすことが出来る医師を態度、知識、技術面から教育し、緩和医療の普及に貢献することを主な目的とする。また、医師養成を行う際に必要なカリキュラム、システム、待遇等について検討する。

＜方法＞

当院での研修を希望した豊田紀夫医師を一年間常勤嘱託フェローとして採用し、教育、評価を行った。

2．内容・実施計画

当院での研修体制を参考に作成された、全国ホスピス緩和ケア協会作成の緩和ケア病棟における医師研修指導指針（別紙）に基づき教育、指導を行った。

待遇

① 当院常勤嘱託職員として、基本給 35 万円/月+時間外勤務手当を支給した。

II.　成果

1.　研修修了者の評価と成果

1)　自己評価

①　別紙参照

2)　指導医による評価

態度面では、日々の診療を通して身体面のみならず、精神的、社会的、スピリチュアルな面にも視野を広げ、患者の側に立つことができるようになった。

実際の診療面では十分な知識と技能を身につけたと思われる。今後は、緩和ケアに関する教育、研究にも力を入れるとともに、腫瘍学にもふれる努力が必要と思われる。また、一年目では病棟での研修が主となるため、緩和ケアチーム、緩和ケア外来での研修が今後は必要と思われる。

2. 研修実施施設としての成果

○定期的に座学の機会を持つ

豊田医師の研修を知識的な面からもサポートできるように、毎週金曜日の7：30から8：00までの30分間、緩和ケアに関する教科書等を指導医ともに読み、学び、アドバイスする時間を持つことができた。このことが、定期的な相談の機会ともなり、研修を充実したものとすることができたように思われる。

○後進の指導による効果

当院のジュニアレジデント、シニアレジデントと共に診療に当たる機会をもつことにより、後進の指導に当たる機会を持つことができた。知識の整理と、当院レジデントとの交流の機会となった。

○組織の再編成

緩和ケア科が当院内科グループの一つに加わることになった。当科のみならず、内科全体の指導体制の下で全身管理に必要な指導が受けられるように体勢を整えた。また、豊田医師が内科当直の役を担うに当たり、一般内科的な知識と技術を学ぶ機会を持つことができた。

また、従来緩和ケア科の患者の看取りは、緩和ケア科医師が夜間、休日もオンコール体制で臨み対応していたが、本人と家族の受け入れもよく自然で落ち着いた看取りの場合は、内科当直医に看取っていただくことができるようになった。これにより、身体的精神的拘束時間の短縮につながり、余裕を持つ研修ができるようになった。

○研修の周知、広報

貴財団による研修の案内を、講演を行う度に実施するよう心がけた。

III. まとめ

今年度、豊田医師の研修を行うことによって、豊田医師自身の成長が得られたとともに、当科としての研修体制にも大きな成果を得ることができた。これらの成果を来年度の研修にも活かし、より良い研修施設として成長していきたい。

最後になりましたが、貴財団による助成にこころより感謝いたしております。ありがとうございました。今後ともよろしくお願いします。